



# 環境学習施設の つくり方

—地域に多面的価値を創出する施設—

地域を守り市民に親しまれる施設に

## 今治市クリーンセンター 「バリクリーン」

その取り組み内容を本稿にて紹介し  
ます。

### ●今治市クリーンセンター「今治モデル」

今治市は2005年の市町村合併により緑豊かな山間部や世界有数の多島美を誇る島しょ部など、変化に富んだ地勢で構成された街となりました。この合併の一つの成果として、今治・大島・伯方・大三島の四つのごみ処理施設を集約し、市で唯一のごみ処理施設として本施設は整備されました。

2010年に発足したごみ処理施設整備検討審議会では、一周辺住民の生活に及ぼす影響の評価が重要であるため、施設設置により地域の住民を中心とした住環境が良くなるとともに、住民から歓迎される施設となるよう、新しいアイデアを出し、21世紀のごみ処理施設のモデルとなるよう検討することが提唱されました。

これを受けて、①廃棄物を安全かつ安定的に処理する施設、②地域を守り市民に親しまれる施設、③環境啓発、体験型学習および情報発信ができる施設——の三つの柱からなる「今治モデル」がコンセプトとして定められました。

### ●市民が身近に感じる施設の地域開放

これからのごみ処理施設は地域に必要とされる施設となることが肝要であり、そのためには施設を知ってもらうこと、施設に来てもらうことが重要です。また、このような施設運営を維持していくために、市と事業者だけでの運営に留まらず、市・事業者・市民が協力して施設を守っていくスキームを構築することで持続可能な施設運営を行っています。

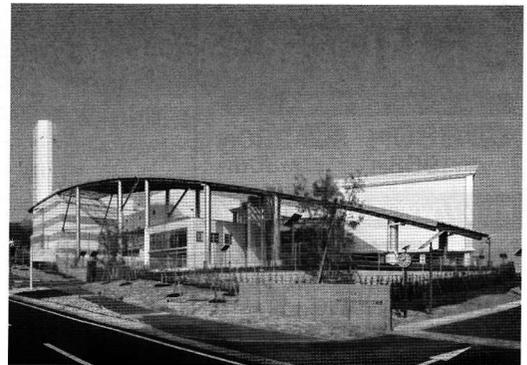
#### ・防災に向けた地域協働

今治市、今治ハイトラスト(株)、全国で災害支援活動を実施している経験豊富な地元NPOが連携して災害時の施設運営を行う計画です。災害時に課題となる人員不足や経験不足をクリアし、市民とともに避難所運営を行うための万全の体制を整備しています。

#### 避難所開設訓練は毎年実施し、今治市、今治ハイトラスト、地元NPO、市民らが参加し、それぞれの対応能力を向上させるとともに、協力体制を強化しています。

避難所機能

本施設は、今治市内で災害等が発生した際に避難所としての機能を有しています。320人の方が避難可能なスペースを確保しており、災害



今治市クリーンセンター外観

備蓄品なども備えています。ごみ処理施設の特徴である発電機能を生かし、有事においても電気を使用することが可能です。

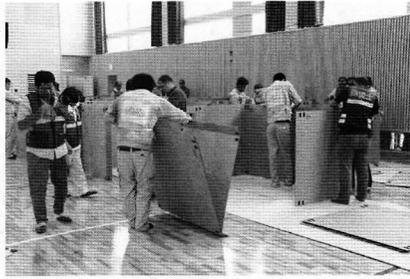
2018年9月30日に台風24号が今治市を直撃した際、「施設に避難した方が安全」ということで、近隣の住民の方が避難された実績もあり、地域を守る施設としての役割を果たしています。

### ●人々が集うイベントの開催

従来、ごみ処理施設とは社会科見学で小学生が訪れる程度で、市民の方が気軽に訪れる場所というイメージ



貸し出しされている大研修室



NPOや市民が参加する避難所開設訓練

ジはありませんでした。しかし、本施設は、コンセプトに挙げられている「地域を守り市民に親しまれる施設」となることを目指し、本施設を環境啓発やスポーツ活動等の地域交流、環境フェスティバルをはじめと

した各種イベントの場として広く活用され、訪れた人々に施設の役割や環境を守ることの大切さを発信しています。この取り組みにより本施設は、年間2万人以上が訪れる「市民の憩いの場」として活躍しています。

・施設設備の貸し出し  
施設内の多目的室・大研修室などは貸し出しを行っており、多くの市民が施設に立ち寄るきっかけとなっています。

また、環境教育・防災研修等に係る使用については、使用料を無料とすることで、単なる公共施設の貸し出しではなく、環境や防災に紐づく活動の支援を行っています。

・「いまばり環境フェスティバル」の開催

「いまばり環境フェスティバル」では、普段はごみの受入を行うプラットホームをメイン会場に、ステージや、フリーマーケット、ハンドメイドなどの出店が軒を連ねます。また、普段はごみの搬入車を通る屋外道路などでは、はたらく車の試乗や人気のフードトラックの出店で、大人も子どもも楽しめる空間としています。普段は入る機会のない廃棄物処理施設の内部を開放してこのようなイベントを行うことで、従来の

ごみ処理施設のイメージが払しょくされ、市民が身近に感じられる施設となっています。

・定期的なイベントの開催

さらに、施設では環境啓発・地域コミュニティ・防災をテーマとしたイベントを毎月実施し、多数のリピーターが確保できるよう「成果物を持ち帰れるワークショップ」なども取り入れています。また、親子で一緒に参加できる内容も加えること

で、環境について学べるだけでなく、子供から大人まで幅広い世代の交流を促進する内容となっています。

・新たな集いの場「鹿ノ子グリーンパーク」

2022年3月今治市クリーンセンターに隣接して、旧施設解体跡地に「鹿ノ子グリーンパーク」が整備されました。パーク内には芝生広場、アスファルト舗装パントラック、スラックライン用アンカー、バスケットゴールなどを備えており、クリーンセンターと合わせた大規模なイベントの開催や新たな市民の憩いの場とする事で、新たな集いを生み出していくことでしよう。

### ●最後に

ごみ処理施設の建設では、地域住

民との合意形成が重要です。合意形成のプロセスでは、地域住民の意見を十分に反映し、ごみ処理機能に留まらない、地域にとって新たな価値のある機能を持たせることにより、従来の迷惑施設としてのイメージを一新し、地域の住民が親しみを感じられる施設整備を推進することができま

本施設は、最新の技術を導入したごみ処理施設であるだけではなく、市民の集う場を提供し、市民と今治市、運営事業者が協調しながらより良い施設を目指すことで、迷惑施設となりがちなごみ処理施設のイメージを一新し、市民に親しまれ、地域を守るごみ処理施設となりました。今後、これからのごみ処理施設のモデルとして、地域に新たな価値をもたらす今治市クリーンセンターの取り組みに注目です。(環境学習施設を考える会・事務局) **W**

### ●連絡先●

#### 環境学習施設研究部会

「環境学習施設研究部会」で検索すると、(一社)廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会のページがでてきます。同部会がfacebookの「環境学習施設を考える会」も運営しています。